

図画工作科

造形・美術の世界を通して価値観の広がりにつけ、 かかわりのなかで自信をもってつくり出していく力を育てる 図画工作科学習

図画工作科研究部 : 大櫃重剛 , 武田 渉 , 栗原正治

本校図画工作科の目標

造形活動における個性とは、「そのらしさ」「得意技」「持ち味」。自分のよさに気付いていく充実した造形活動の過程でこそ友だちのよさを大切に思う心が育まれる。安心して自己表現できる学習環境の設定こそ子どもが自己実現へ向かう出発点になる、と考える。

したがって、自信を形成する要素は、個々の成功体験だけではない。仲間がつまずきや疑問に直面した場面で、学び集団として解決へ向けて取り組む経験を重ねることで、さらに学習意欲が高まる授業を目指す。

「子どもたちが自信をもち学び続ける」ための図画工作科授業デザイン

「創造的思考」

問題に直面したときに、新しくて有意義な着想を生み出す思考である。与えられた条件から多くの可能な解答を出す発散的思考であること。

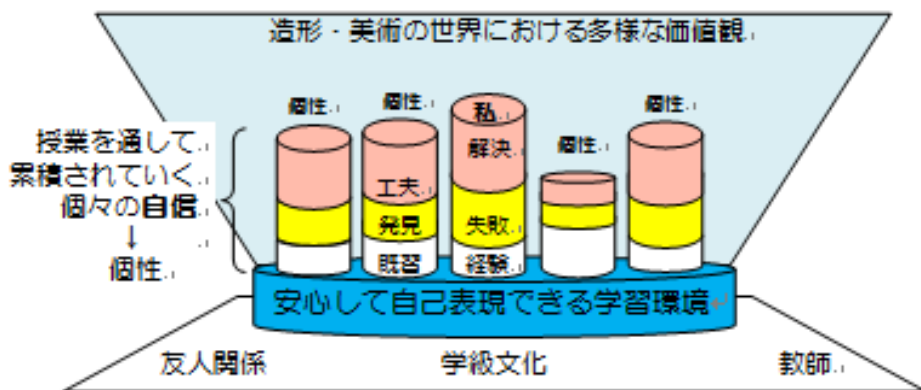
日本大百科全書(小学館)より

「創造的思考」を深める3つの要素

- ・自分らしい気づきや見方を引き出す題材の設定 **明確なスタートライン**と「がんばれば越えられそうな」ハードル
- ・活動中、自発的に繰り返される鑑賞

友だちとちがうところがいいところ

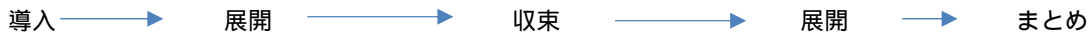
- ・自分の考えや表現を俯瞰するための場(時間) 伝えたり書いたりすることで自分を再確認



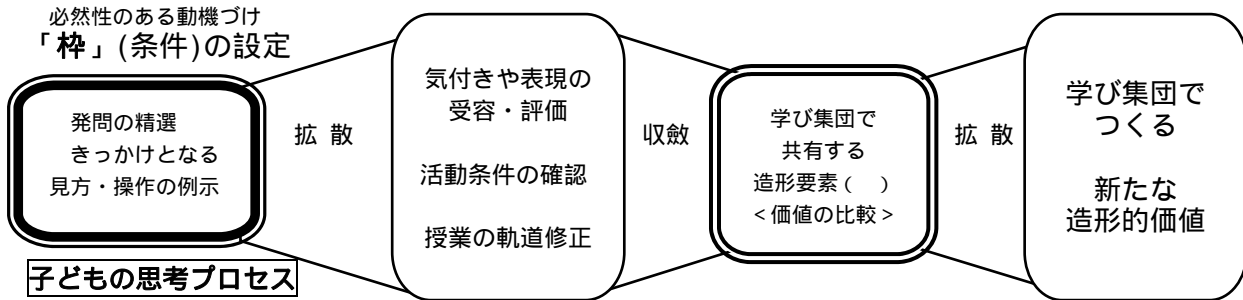
◆「自信をもち学び続ける子どもたち」をめざして、育てたい力と題材カリキュラムの構成

幼児期	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学美術
【幼稚園】 主体的な活動 遊びを通して 個の生活経験 豊かな感性 表現する意欲 【保育園】 【家庭】 親からの承認	つくりだすことへの 関心・意欲 低学年総合学習における造形活動 体全体の感覚で 興味のある対象 楽しいことを 思いついて	実生活への働きかけ 自分なりの意味生成 形や色の見立て 自分なりの物語 身近な事物に造形の 面白さを感じ取る	共生・共感 学級づくり 互いの工夫のよさを 感じ合う 動きや操作から 生まれる発想 さまざまな材料	自立・発見 学級文化の醸成 互いの考えのちがいを よさを伝え合う 造形体験を通して 発見する見方や表現 新たな用具・技法	協働・啓発 学級づくり 互いの思いを活かし ながら高め合う 自分なりの感じ方・見方 → 自分の主題 空間認識への芽生え、描画への意欲(逼近法等) 材料と場所の特徴	自己表現・批評 学級文化の醸成 個々の表現に自信を もち批評し合う 統合 → 卒業製作	美術を愛好 する心情 美術の基礎 的な能力 美術文化への 理解 社会との つながり 豊かな情操
	造形遊び		造形遊び		造形遊び		

【授業の流れ】

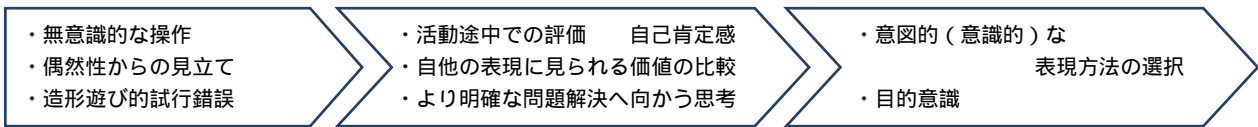


授業者の見通し



子どもの思考プロセス

「面白そう!」「やってみたい」 「私の工夫が紹介されて嬉しい」 「あの子のやり方がいいな」 「この場合はこっちの
「私にもできそう」「何となくできた」 「みんなと違うことをやっていた」 「色々な方法を見発してきた」 「方法が良さそうだね」



研究テーマとの関連	学年目標	各学年における「自信をもち学び続ける子どもたち」の期待する姿	具体的な手だて
	1年 つくりだすことへの 関心・意欲	個々の興味ある対象に対して楽しいことを思いつく活動を通して、互いの興味や感じ方のよさに気付く学び集団に向けて。	生活の中で互いの作品や活動を見合うことができる環境をつくり、さまざまな感じ方があることに気付くことができるようにする。
	2年 実生活への働きかけ、自分 なりの意味生成	身近なものの造形に面白さを感じたり、自分なりの物語性を取り入れたりして表す活動を通して、互いの視点や発想のよさを味わう学び集団に向けて。	作品を他の学年や保護者などへ発表したり、贈ったりする活動を展開しながら、相手意識や目的意識をもった表現活動ができるようにする。
	3年 共生・共感	同じ材料や表現方法から自分の思いを広げる活動を通して、互いの工夫のよさを感じ合う学び集団に向けて。 低学年での異なる造型活動の経験をいかしつつ、自分の表現を仲間に出出できる人間関係・雰囲気構築し直す。	活動途中や終盤で鑑賞学習をこまめに設定し、互いの作品や活動を見合えるようになる素地をつくる。 題材ごとに作品を教室前に掲示するなど、日常も互いの作品について語り合える環境をつくる。
	4年 自立・発見	自分らしい表現を発見する活動を通して、互いの考えのちがいやよさを伝え合う学び集団に向けて。 同じ題材の中で発見した自分の発想を発表する機会を増やし、互いの表現から刺激を受け合う関係をつくりだす。	発見したばかりの発想を見合うことができる掲示板を活用し、具体的なちがいを実感しながら質問し合う場面をつくる。 付箋紙を使った鑑賞カードを併用。授業後もふり返る工夫をする。
	5年 協働・啓発	ひとつの表現目標を共に実現しようとする活動を通して、互いの思いを活かしながら高め合う学び集団に向けて。 仲間との協働場面における達成感やもどかしさの中で、自分の活動や表現をふり返り積極的に考えを発信し合える関係をめざす。	「班での共同制作」と「鑑賞学習」を繰り返し、表現活動を通して豊かに語り合う雰囲気を再構築する。 協働する活動・協議する場面を分析し、語られた思いのズレや共感についてのつづやきを授業全体へ反映させる。
	6年 自己表現・批評	自分の表現目標を達成しようとする活動を通して、個々の表現に自信をもち批評し合う学び集団に向けて。 自分の表現をより深めるため見直す場面を意識させ、互いの改善点をアドバイスし合うことができる関係をめざす。	導入時に「構想カード」を、製作中に「鑑賞カード」を活用することで、互いの考えを批評し合う具体的な資料にする。 全校児童や保護者へ向けた、作品の上映会や作品展を広く開催し、自分の表現に自信を深める場を積極的に設定する。